

8 とちぎの元気な森づくり県民税について

(1) 重要と考える森林の働き

問22 森林には、木材を生産したり、水や空気を育んだり、土砂災害を防いだり、地球温暖化を防止するなど、様々な働きがあります。あなたが、特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

[n=1,373]

1	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを生産する働き	12.8%
2	水資源を蓄える働き	46.0
3	洪水などの災害を防止する働き	52.6
4	野生動植物の生息の場としての働き	29.5
5	空気をきれいにしたり、騒音を和らげる働き	27.6
6	自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き	31.2
7	自然と人との関わりを学ぶなど教育の場としての働き	13.4
8	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	52.1
9	その他	0.5
10	わからない	3.9
	(無回答)	1.5



※「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを生産する働き」(12.8%)は、平成22年調査では、「木材を生産する働き」(9.3%)と「きのこや山菜などの林産物を生産する働き」(4.7%)の2つの選択肢で質問していた。

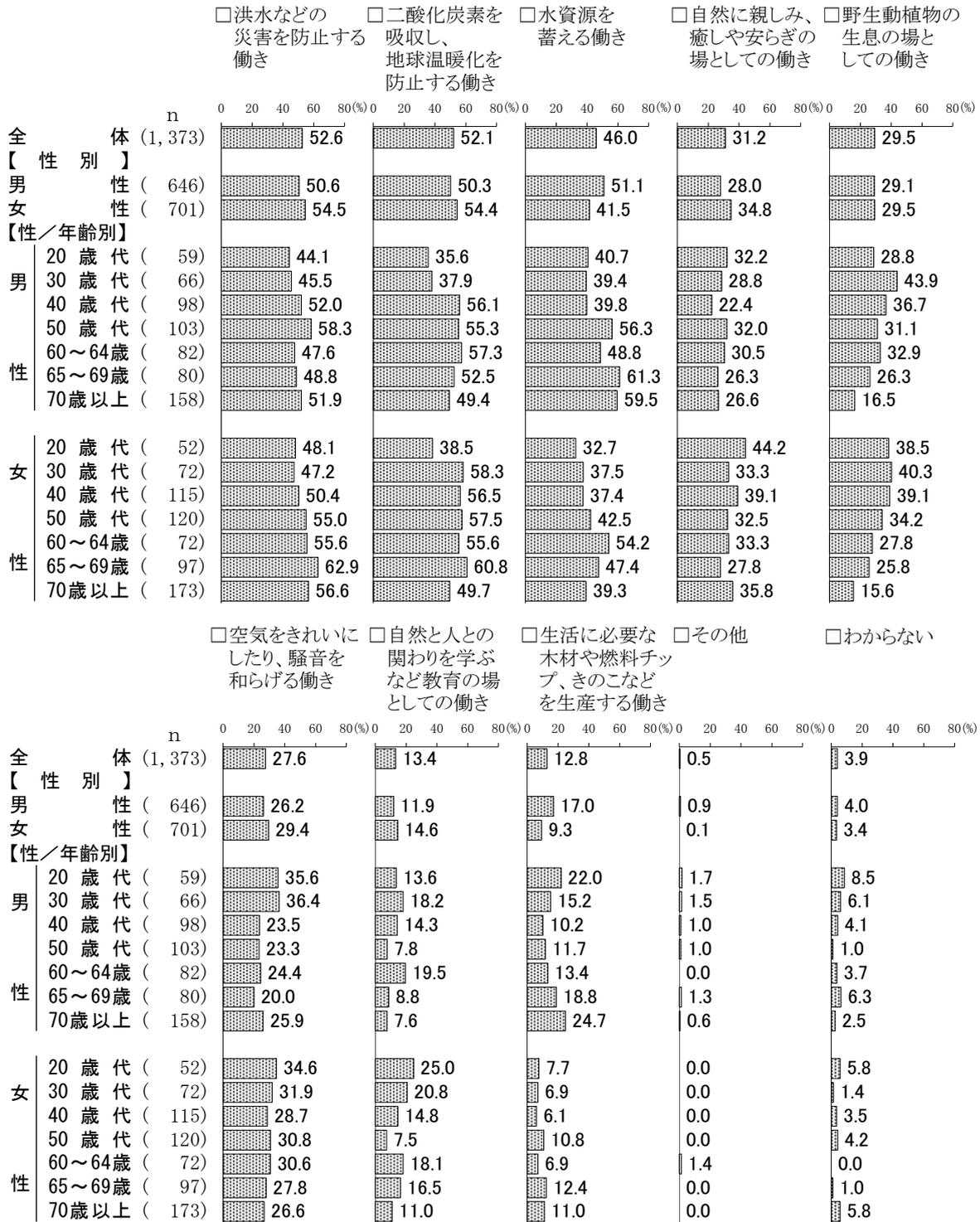
なお、作図の便宜上、「木材を生産する働き」(9.3%)を平成22年調査の割合として示している。

※平成22年調査で選択肢に加えていた「特にない」(0.5%)は、今回調査では質問していない。

全体で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」(52.6%)と「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(52.1%)がともに5割を超えて高く、次いで「水資源を蓄える働き」(46.0%)、「自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き」(31.2%)、「野生動植物の生息の場としての働き」(29.5%)の順となっている。

平成22年の調査結果との比較は、一部の選択肢が変更されているため参考にとどまるが、上位3項目の順位に変動はみられない。

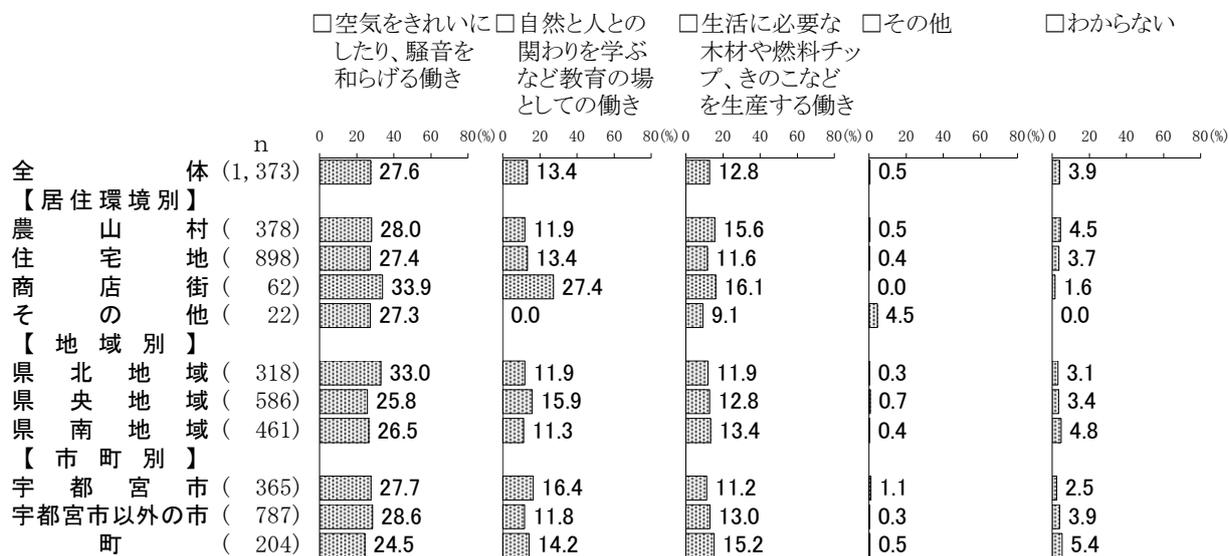
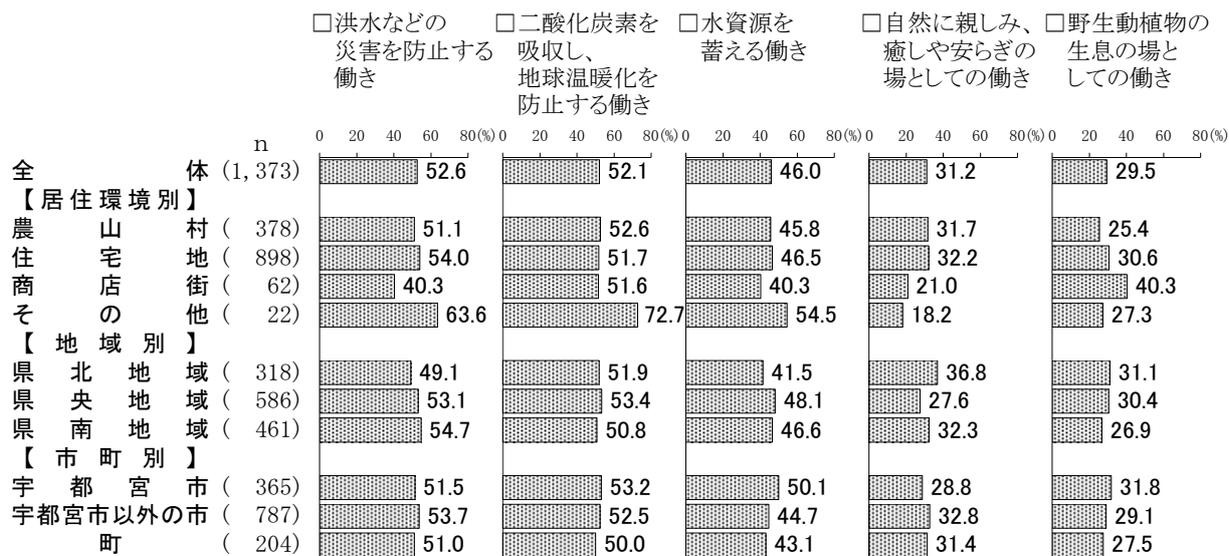
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈男性〉(51.1%)が〈女性〉(41.5%)より9.6ポイント高くなっている。「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを生産する働き」では〈男性〉(17.0%)が〈女性〉(9.3%)より7.7ポイント高くなっている。「自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き」では〈女性〉(34.8%)が〈男性〉(28.0%)より6.8ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」では〈女性65~69歳〉が62.9%と高くなっている。「水資源を蓄える働き」では〈男性65~69歳〉が61.3%と高くなっている。「自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き」では〈女性20歳代〉が44.2%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈男性30歳代〉が43.9%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別で見ると、「洪水などの災害を防止する働き」では〈住宅地〉が54.0%と高くなっている。「野生動植物の生息の場としての働き」では〈商店街〉が40.3%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげる働き」では〈商店街〉が33.9%と高くなっている。「自然と人との関わりを学ぶなど教育の場としての働き」では〈商店街〉が27.4%と高くなっている。

地域別で見ると、「自然に親しみ、癒しや安らぎの場としての働き」では〈県北地域〉が36.8%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげる働き」では〈県北地域〉が33.0%と高くなっている。

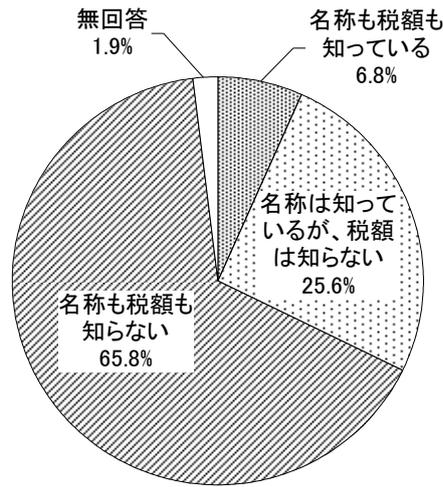
市町別で見ると、「水資源を蓄える働き」では〈宇都宮市〉が50.1%と高くなっている。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の認知度

問23 あなたは、森林を守り育て、元気な姿で次の世代に引き継いでいくため、平成20年4月から導入している「とちぎの元気な森づくり県民税」、いわゆる森林環境税を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

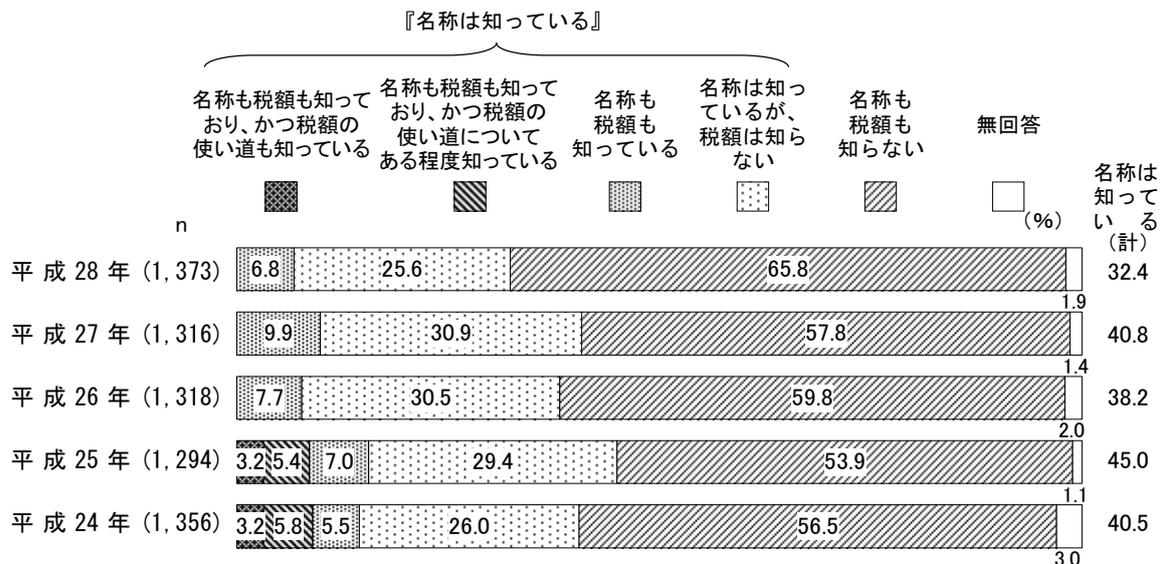
[n=1,373]

- | | | | | | |
|---|-------------------|------|-------|------------|-------|
| 1 | 名称も税額も知っている | 6.8% | 3 | 名称も税額も知らない | 65.8% |
| 2 | 名称は知っているが、税額は知らない | 25.6 | (無回答) | | 1.9 |



(n=1,373)

全体でみると、「名称も税額も知っている」(6.8%)と「名称は知っているが、税額は知らない」(25.6%)の2つを合わせた『名称は知っている』(32.4%)は3割を超えている。一方、「名称も税額も知らない」(65.8%)は6割半ばとなっている。

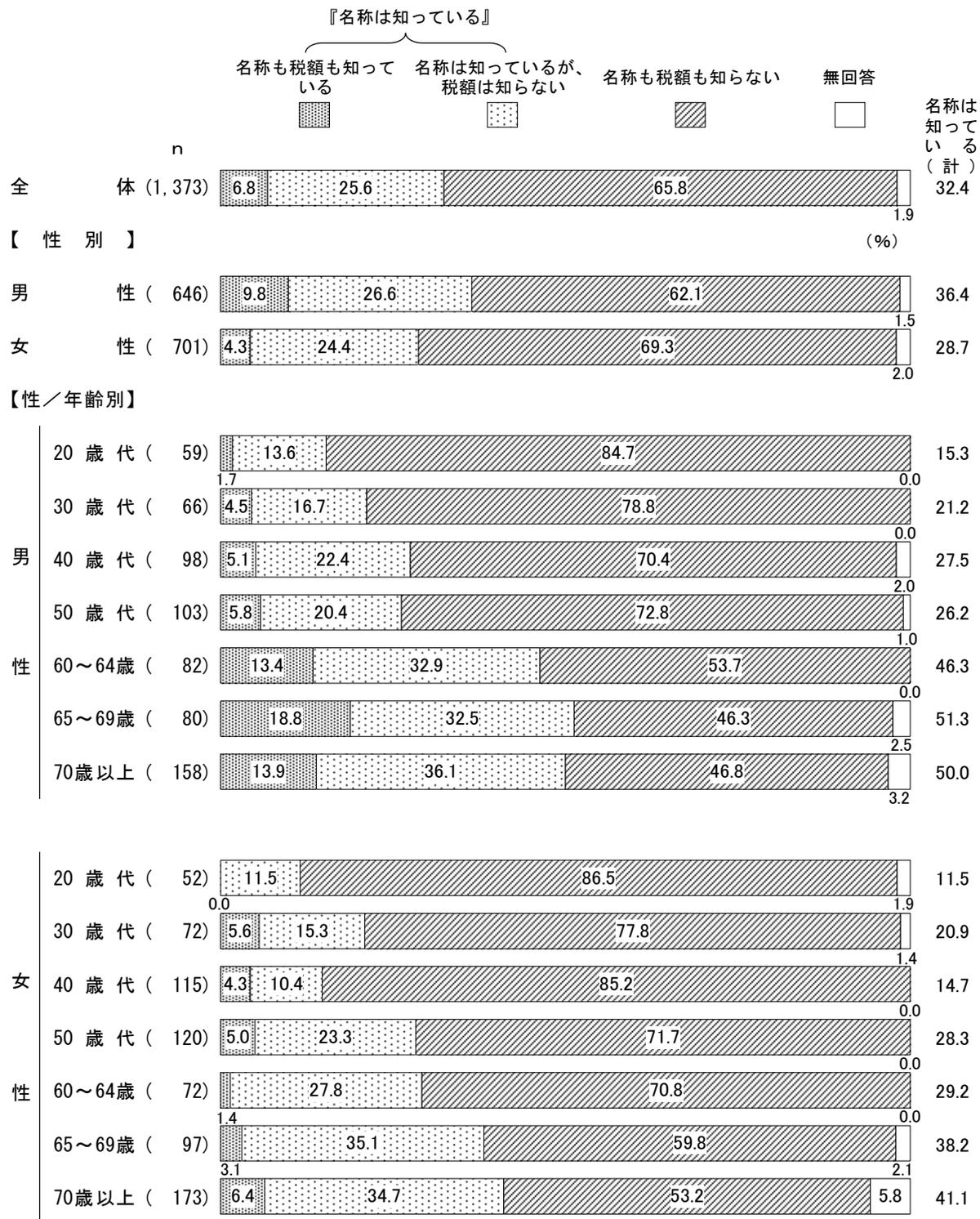


※「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道も知っている」と「名称も税額も知っており、かつ税額の使い道についてある程度知っている」はともに平成26年調査以降は選択肢に加えていない。

※平成24年・25年調査では、「名称も税額も知っている」は「名称と税額のみ知っている」としていた。

過去の調査結果と比較すると、『名称は知っている』が前回(平成27年)より8.4ポイント減少している。一方、「名称も税額も知らない」が前回(平成27年)より8.0ポイント増加している。

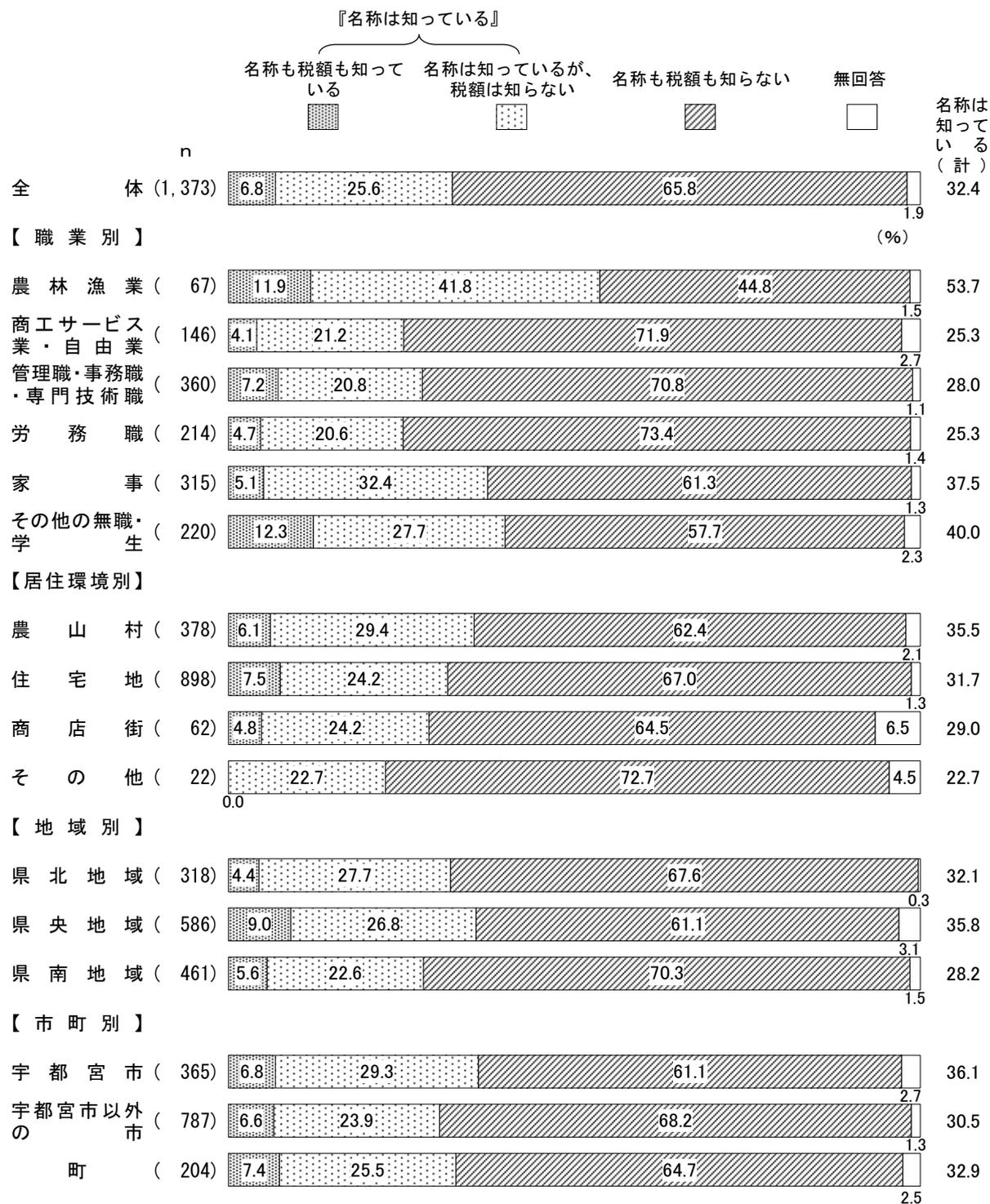
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『名称は知っている』では〈男性〉(36.4%)が〈女性〉(28.7%)より7.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『名称は知っている』では〈男性65～69歳〉が51.3%、〈男性70歳以上〉が50.0%と高くなっている。「名称も税額も知らない」では〈女性20歳代〉が86.5%、〈女性40歳代〉が85.2%、〈男性20歳代〉が84.7%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『名称は知っている』では〈農林漁業〉が53.7%と高くなっている。「名称も税額も知らない」では〈労務職〉が73.4%、〈商工サービス業・自由業〉が71.9%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が70.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、『名称は知っている』では〈農山村〉が35.5%と高くなっている。

地域別でみると、『名称は知っている』では〈県央地域〉が35.8%と高くなっている。

市町別でみると、『名称は知っている』では〈宇都宮市〉が36.1%と高くなっている。